

令和5年度 学校評価				
本年度 重点目標	1. 全校生徒の学力向上【授業最優先・分かりやすい授業の展開】 2. ICT教育の強化 3. 授業改革と教員の授業力向上 4. 挨拶と礼儀を重んじた明るい生徒の育成 5. 校内環境の整備 6. 姉妹校との高大連携と進学促進 7. キャリア教育とインターンシップの強化 8. 部活動の活性化と強化及び安全管理と事故防止 9. いじめ防止対策、長期欠席者の迅速な対応 10. 教員の生徒募集に関する意識の向上 11. 教職員としての意識向上・健康管理、教職員間の信頼関係 12. 地域との連携・交流の推進 13. 生徒・保護者との信頼関係構築 14. 新型コロナウイルス感染症の感染予防			
担当分掌	重点目標	重点項目	評価	評価結果と課題
教務	・学力向上	基礎学力指導の実施	B	重点項目の「学力向上」は課題を実力試験前にさせることで成績の向上につながった。 しかし、学習習慣の定着には課題が残る結果となった。 研究授業は教育実習生によるものを除き、教員の実施は1人だけだったので、次年度は早くから声掛けをしたい。 授業見学も校務が重なるのでなかなか難しいが、授業改善の一環として引き続き実施をしていきたい。 教務倉庫は保管書類を処分したことでかなり余裕ができた。倉庫の有効活用を考えたい。
		実力試験の有効活用	A	
		学習習慣の定着	B	
	・授業改善の取り組み	研究授業・授業アンケートの実施	C	
		校内研修の実施	A	
		教科会の活性化	B	
	・業務の効率化	教務内規等の検討・策定	A	
		手引等文書類の充実	B	
	教務倉庫の整理・整頓	A		
情報管理	・学内コンピュータネットワークの 運営・保守・管理を行う	ネットワークの保守・管理	A	ネットワークに関しては校内LANの整備を進めており、新規教室やフードクリエイトルーム・理科室などの特別教室にも追加した。 サーバー類に関しては、障害が発生したときに早急に対応して復旧させた。容量についても順次拡張と修正を検討中である。新規システムの検討・更新については採点ナビを導入しており、採点業務の効率化をおこなった。 また導入に伴いマニュアルなどが作成された。配信メールの活用も日々増えており、活性化している。 ホームページに関しては新しい取り組みを検討しており、来年度より、活用を増やしていく。
		サーバー類の保守・管理	A	
	・情報機器の活用のための ガイドライン・マニュアルの整備を行う	情報機器の保守・管理	A	
		各種ガイドライン・マニュアルの作成、整備	A	
		一斉配信メールの活用	A	
	・既存のシステムの活用および 更新の検討を行う	ホームページの活用	B	
		新規システムの検討・更新	A	
総務	・校内環境の整備	設備・施設の管理・営繕および正しい利用法の啓発	A	校内の設備・施設の管理・営繕については、第1グラウンドに人工芝を敷いた事により、教育環境としてのグレードが上がり、景観も明るい雰囲気になった。バリアフリー化を含め校内の学習環境や設備の充実に関しては、車椅子を使用する生徒の学校生活にできるだけ不自由がないように、新たなバリアフリー設備を設ける事に力を入れた。ただ、まだスムーズに動き難い場所もあるため、教育活動への支障が出ないよう、計画的に教育環境の充実を推進していく必要がある。今後は経年劣化により必要となる補修等についても早めの対策を講じていきたい。環境美化については、週に2回程度ではあるが外部にトイレ清掃業務を委託し、生徒達では手の届かない部分についても清掃を行って頂けるようになり、衛生面にも努めた。式典に関しては、コロナ対策の時期にはできなかった取組みも可能になり、内容に広がりを持った。次年度に向けては規制緩和の中で、より一層の行事内容や実施方法の見直しも視野に入れて計画していきたい。
		バリアフリー化を含め校内の学習環境や設備の充実を図る	A	
		ゴミの適切な分別と環境美化の徹底	B	
	・衛生的な校内施設の利用啓発	廃棄物の減量とリサイクル意識の向上	B	
		適切な備品・消耗品の調達と修繕	A	
	・経費削減の啓発および具体的な実施	経費節減(省エネ・節約)	A	
		式典の計画・実施及び改善	A	
	・非常時における危機管理意識の向上	次年度行事予定の見直し・調整	B	
		実践的な避難訓練の計画・実施	A	
進路指導	・進路への位置づけ	各学年に適した進路ガイダンスの実施	A	進路ガイダンスは、3年生がコースごとに1、2年生へ体験を話すというスタイルが定着してきている。適性診断については、学年で実施するスタディサプリとの重なりもあり、厚生労働省のレディネステスト等の実施を見送った。進路指導室には、パソコンで実施できるものもあるので、利用した生徒が何人かいたが、周知徹底をさらに図っていきたい。インターンシップは、宿泊を伴う足湯温泉のものも復活することができた。夏の保護者会時に、姉妹校ブースを設置した。キャリア教育では、総合探究推進委員会とも協力して、1年「企業展」、2年「卒業生交流会」+分野別説明会を実施することができた。入試対策としては、ベネッセハイスクールオンラインの受験レポートを活用した。今年度は、名古屋工業大学に進学する生徒もおり、地道に学習指導をした担任団の努力が実を結んだ。就職に関しては、難関企業にも着実に就職をすることができた。看護医療系に進みたい生徒に対する対策を、引き続き強めていく必要がある。
		『進路の手引き』など内部・外部の情報誌を有効活用	A	
		保護者対象進路説明会などでの進路情報の提供および姉妹校入学の特典の周知	A	
	・進路未定者の減少	職業観を高めるためのインターンシップの実施	A	
		進路を考える材料としての適性診断の複数回実施	B	
	・姉妹校への入学者増	キャリア教育の推進	A	
		入試改革に向けた情報の提供と対策強化	A	
	・正社員雇用内定率の向上	変化する入試情報の提供	A	
		各学年、担任による複数回の個人面談の実施	A	

担当分掌	重点目標	重点項目			
生徒会	・行事の円滑な運用および主体的参加者の増加	コロナ禍での学校行事の在り方を考えるとともに、より多くの生徒が学校行事に主体的に参加することを目指す。	A	今年度は、コロナ前の文化祭と同規模の文化祭の実施を目指した。文化祭では1日開催を実施し、模擬店による飲食物の復活を実現することができた。それに加えて外部からのキッチンカーを呼び込み大変賑わいある文化祭となった。また、文化祭のオープニング企画として外部から志願太鼓の皆様をお迎えすることができた。久しぶりの体育館での学校行事に生徒達の反応も大きかった。また、部活動へは例年より予算を多く準備して部活動の活性化に繋がるように予算作成を行った。	
	・生徒会活動と各委員会の活性化	週一回の生徒会定例会と、生徒会新聞の発行による情報発信と生徒会研修生・実行委員の積極的な育成と生徒による自治組織の運営	B		
	・部活の活性化	持続可能な部活動への予算配分による部活動の活性化	A		
	・ボランティア活動の推進	あいさつ運動や校外美化清掃やボランティア活動への参加	B		
生活指導	・常に菊華高等学校生であることを自覚し、行動できる生徒を育てる	挨拶の励行、ルールの遵守、基本的な生活習慣、安全指導等、生徒の社会性の向上を図る	B	守山警察署が実施した交通安全100日ラリーに参加しましたが、目標を達成できませんでした。今後は、国の指針に基づき自転車の規制が強化される見通しですので、本校も生徒への啓蒙活動を一層強化していきたいと考えています。また、安全性を考慮し、ヘルメットの着用率を向上させることを目指します。普段のHR活動や外部講師による講師により他者を思いやる気持ちの育成をしてきました。今後もこの取り組みを継続していきます。	
	・交通安全指導の充実	自他の権利を理解し、お互いに思いやり共生する心の育成	B		
健康管理	・日常の健康観察	保健室の利用状況の把握	A	保健室利用時には必ず授業担当の先生に伝えることの徹底ができた。また利用時気になる生徒への対応として、担任へ報告を行い担任が必要な生徒保護者へ連絡をとり、連携を取ることが出来た。	
		新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について	B		新型コロナウイルス感染症、インフルエンザが同時流行し、本校も数クラス学級閉鎖の対応を行った。再度感染予防を流行期に取り入れていき、感染予防に繋がりたい。カウンセラーの先生に、今年度は特に保護者対応も含めた対応方法で活用させていただきました。
		カウンセラーの活用	A		
渉外	・募集定員の入学者数(特に推薦受験者)確保	各学科・コースの入学者数増加	A	今年度の募集人数に関して、ITビジネス科の入学者数は、施設等の関係で2クラス運営を予定していた。そのため、入試基準を昨年度より上げざるを得ず、何とか予定通りの募集活動ができた。昨年度より受験者数・入学者数は厳しかったものの、何とか学園からの入学者目標数320名を上回る事ができた。その要因としては、昨年度入学者数が多かった守山区・北区を中心とした、近隣協力校からの受験者数は厳しかったが、何とか微減で収まった。その他の地区は、瀬戸市や千種区・西区での増加があり、本校の認知度や魅力等を理解していただいた結果ではないかと思う。しかし、今年度の夏の体験会や私学展では、参加人数は多かったが、秋の体験会や説明会への参加者数がかなり厳しかったため、参加していただけるように日程や内容の検討が必要である。何よりも中学生・保護者に本校のことを知っていただくため認知度を上げるように、行事への参加や学校案内・ホームページ等のPR活動を今後も継続して実施していきたい。	
	・渉外行事の充実	推薦(特別専願含む)および一般受験者数増加	A		
		学校体験会・学校説明会等の行事への参加者数増加	B		
	・募集アイテムの充実	行事参加者への満足度(内容の充実)からの受験者数増加	A		
		学校紹介&学校体験会フライヤー・学校案内パンフレット等の充実および活用(各学科・コースのPR強化)	A		
		認知度を高めるためのホームページの充実	A		
いじめ防止対策	・日常の観察	アンテナを高く持ち問題を感じたら、学年主任へ報告。学年で問題を精査し、必要であれば、いじめ防止対策委員会へ報告	A	・問題発生時の備えは十分にできているが、SNSでの問題発生が多くみられるようになっているので、その発見が難しくなっている。 ・各担任、各学年が早期に問題を見出し解決にあたったので、大きなトラブルまでには発展しなかった。 ・スクールカウンセラーとの連絡を密にし、ご指導を仰ぎながら問題の解決にあたった。	
	・問題の緊急性に関する対応	激しい誹謗中傷、暴力など早急な対応が求められる事案に関しては、即いじめ防止対策委員会を招集し、対応を協議	A		
	・アンケート、スクールカウンセラーの活用	問題の全貌を知るためにアンケートやクレーベルン等を実施したり、スクールカウンセラーとのカウンセリング活用で被害者、加害者共、心のケアにつとめる	A		
事務	・サービス部門と位置づけ、内部・外部に対しサービス精神をもって業務に取り組む	電話・来客対応を通して学校のイメージ向上への貢献内外に対する親切に行き届いた対応	A	・電話、来客対応等については、常に迅速かつ丁寧な対応を心掛けることができた。 ・教員と事務職員との間で、相互に連携協力できるよう努めた結果、大きなトラブルは発生しなかった。 ・公的補助金については、生徒に対する就学支援金・授業料補助金はもとより、ICT関係の補助金の獲得に努めることができた。 ・令和5年度予算については、国・県の補助金を獲得できるよう学園本部との緊密な連携を図り、臨機応変な対応をとることができた。 ・校費等の出納業務については、正確性の確保を重点として取り組むことができた。 ・積立金管理については、学科別・コース別・個人別に管理しているため、個々人の状況に応じて事務処理が複雑となるが、的確に対応することができた。	
	・事務室と職員室との連携強化と相互協力の推進	確実な情報伝達(ホウ・レン・ソウ)をモットーに、組織のスムーズな運営への寄与	A		
	・公的補助金獲得の最大化	就学支援金・授業料軽減等の対象生徒の申請100%達成補助金制度に精通し、的確な申請にて取りこぼしを防ぐ	A		
	・予算管理の的確化	学園全体の制約の中で、学校経営に於ける予算の立案及び適切な執行管理	A		
	・出納業務の標準化・効率化	校費・PTA・後援会・同窓会等の申請・出納・実績管理の標準化・効率化	A		
	・積立金管理における的確な対応	学科別・コース別・個人別に積立金の執行管理を行う中で、的確な対応を行う。	A		